

1. 感染症速報

令和7年8月1日作成

2025年 第30週 7月21日 ~ 7月27日

作成元:長崎県壱岐保健所 企画保健課

疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り
インフルエンザ		RSウイルス 感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		急性呼吸器 感染症(ARI)	
警報:開始30 終息10	0.33	警報:開始 - 終息 -	0.00	警報:開始3 終息1	0.00	警報:開始8 終息4	0.00	警報:開始 - 終息 -	13.67
感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑 (リンゴ病)		※定点数3:インフルエンザ 新型コロナウイルス感染症 急性呼吸器感染症(ARI) ※定点数2:上記以外の疾患	
警報:開始20 終息12	1.00	警報:開始2 終息1	0.00	警報:開始5 終息2	0.00	警報:開始2 終息1	0.00		
突発性発しん		ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)		新型コロナウイル ス感染症		※急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなども含まれ、報告数は重複します。	
警報:開始 - 終息 -	0.00	警報:開始6 終息2	0.00	警報:開始6 終息2	0.50	警報:開始 - 終息 -	1.00		
	発生報告 なし		少数の発生あり		流行に注意 【注意報レベル】		流行中 【警報レベル】		

※警報レベル基準値は表示のとおり(-は設定なし)。注意報レベル基準値は、インフルエンザ:10 水痘:1 その他は設定なし。

2. トピックス

★伝染性紅斑（リンゴ病）に注意しましょう

香岐管内では、前週（第29週）は警報開始基準値（2.00）を超える「2.50」の報告数で、今週（第30週）は「0.00」となっていますが、引き続き、伝染性紅斑（リンゴ病）に注意していきましょう。

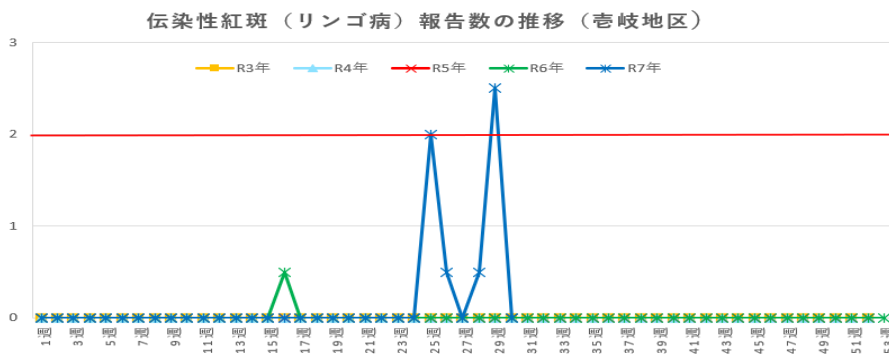
この感染症には治療薬やワクチンがないため、感染予防が重要です。特に妊娠中の方やそのご家族では、かぜ症状がある方との接触をできる限り避け、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がリングのように赤くなることから、「リング病」と呼ばれることもあります。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失し、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで**伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。**

県内の2025年第30週の定点当たり報告数は「1.26」で、前週より減少しましたが、地区別では長崎地区（3.17）、県央地区（2.40）、佐世保地区（1.00）、西彼地区（1.00）は警報レベルの報告数となっています。

感染経路は、飛沫感染や接触感染で、かぜ症状のある時期にウイルスの排出が最も多くなるといわれています。

(参考)厚生労働省 伝染性紅斑



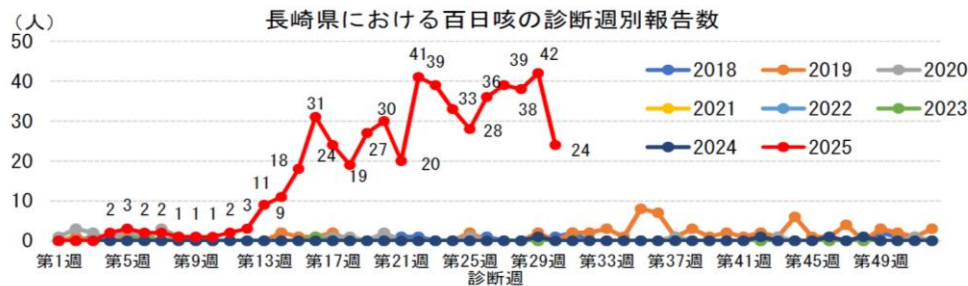
★百日咳の報告が多くなっています

香岐管内において、全数把握疾患となった2018年以降、2020年に1件、それ以降の2024年までは報告数は0件でしたが、2025年に入ってから第30週まで12件と、例年よりかなり多い報告数となっております。年代別では、40代（6人）、50代（3人）、30代（1人）、10代（1人）、80代（1人）の報告があります。

百日咳は、主に百日咳菌の感染によっておこるけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症です。潜伏期は通常5～10日で、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります。夜間の咳発作が多いことも特徴で、回復までに2～3か月かかることもあります。また、乳児では、肺炎、脳症を合併し、重症化することもあります。

県内においては、2025年第30週には24件の報告があり、年代別では、10代（12人）および10歳未満（7人）が多くなっています。また、2025年第30週までの526件の報告においても、10代（262件、50%）、10歳未満（139件、26%）が多く全体の約8割を占めています。

感染経路は飛沫感染ですので、咳エチケット、手洗い、手指消毒で予防に努めましょう。

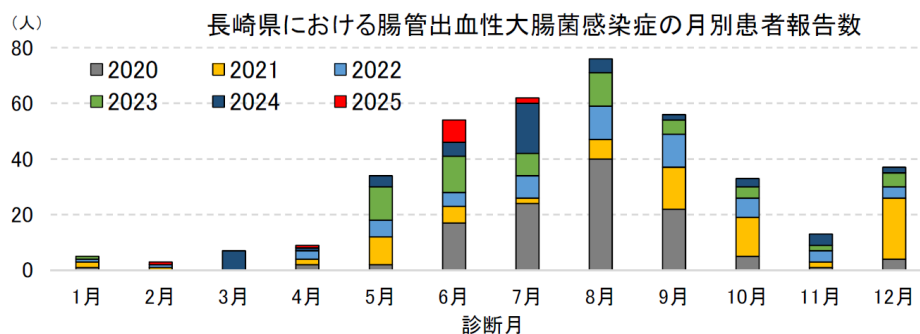


★腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO26をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2日から9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6%から7%が、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。

例年8月に報告が多い傾向にあります。次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。また、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

- 帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
- 肉類を調理する際は十分に加熱しましょう
- 生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用后すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう
- 下痢症状のあるときは、シャワー浴にするか、最後に入浴しましょう



《7月28日～8月3日は「肝臓週間」、7月28日は「日本肝炎デー」》

一生に一度は肝炎ウイルス検査を受けてみませんか？

- 肝硬変や肝がんの主な原因は肝炎ウイルス**です。ウイルスに感染しても自覚症状はなかなか出ません。検査は**血液検査**で簡単にできます。**感染しても適切な管理・治療で肝硬変や肝がんを防ぐことができます。**
- 長崎県では、委託医療機関で無料肝炎ウイルス検査を実施**しています。
また、肝炎の治療には高額な医療費がかかるため、**長崎県では肝炎治療費の助成**を行っています。
検査を受けたことのない方、これから治療をされる方は、お気軽に壱岐保健所（47-0260）へお問い合わせください。
- 無料で検査できる委託医療機関（10か所） R 7.7月現在
郷ノ浦：壱岐病院、品川病院、光武内科循環器科病院、でぐち整形外科医院
勝 本：品川内科医院、品川クリニック
芦 辺：松嶋医院、久原医院、しらかわ内科クリニック
石 田：江田小児科内科医院

